

## 01 目的

社員および家族の健康、即ち、積極的に挑戦する「やる気」、心身ともに健康で、明るくいいきと活力に満ちた「元気」、そして、真剣に取り組み、最後までやり遂げる「本気」で仕事に取り組みめる状態を保持・増進し、「幸せに生きる(Well-being)」ことを実現し、業績や企業価値の向上を目指す。

## 02 課題・目標

### 健康経営で解決したい経営上の課題

	<b>課題 ① 組織のパフォーマンス向上</b>
健康経営で解決したい経営上の課題	社員および家族の健康を保持・増進すると共に、「Well-being」すなわち、「幸せに生きる」ことを、働きがいの向上を通じて実現し、業績や企業価値の向上を目指す
健康経営の実施により期待する効果	TOPPANは従業員を会社の貴重な財産として「人財」ととらえている。全ての人財がWell-beingな状態で業務に取り組むことでイノベーションを産み出し、企業の成長、引いては社会全体の価値創造に繋がることを期待している。

### 自社従業員(組織)の課題と目標

#### 重点課題1 ⑩ 女性特有の健康関連課題等の健康保持・増進に関する課題

<b>課題内容</b>	多様な人財が長く働き続けられる会社作りを目指す中で、女性従業員比率、勤続年数も伸びており、女性特有の健康関連課題にも関心が高まっている。女性の特有の健康課題に対するリテラシー、早期発見、早期治療を促す施策の重要性が高まっている。婦人科検診後に癌も見つかっており、早期発見・治療が重要となっている。			
<b>目標</b>	婦人科検診受診率			
		数値	単位	年度
	取組前実績値	60.7	%	2018年度
	現在の実績値	78.7	%	2023年度
	目標値	75	%	2030年度

#### 重点課題2 ⑫ 生活習慣病等の疾病リスクを持つ従業員への重症化予防の課題

<b>課題内容</b>	これまでも重症化予防については施策を展開してきたが、定年年齢を引き上げや、スピード感を持った事業展開の必要性等から、健康に働き続けられる、生産性の高い職場の実現は持続的な成長に欠かせない。それに向け、疾病の早期発見、早期治療、重症化予防に向け一層の取り組みを行いたい。			
<b>目標</b>	健康リスク値			
		数値	単位	年度
	取組前実績値	肥満リスク:24.7 糖尿病リスク:10.3	高血圧リスク:10.5 脂質リスク:33.9	2018年度
	現在の実績値	肥満リスク:28.0 糖尿病リスク:10.3	高血圧リスク:10.8 脂質リスク:28.7	2023年度
	目標値	肥満リスク:20.0 糖尿病リスク:8.0	高血圧リスク:8.0 脂質リスク:28.0	2030年度

## 04 健康経営の成果

**経営上の課題に対する健康経営の成果**  
従業員や家族の健康促進だけでなく、社会価値創造企業として、健康に関する事業が生み出されており、その展開に当たって、社内での取り組みが参考となっている。  
健康に貢献するサービス数:26(2023年度)

## 03 施策・実績

### 健康経営の取り組み

#### 施策内容(重点課題1)

定期健診時に婦人科検診も実施、できない事業所は、代行機関を利用し希望する健診施設での受診手配や窓口負担した費用の事後精算を実施。  
性別ごとのライフステージ別の健康課題とケアの方法や、職場でのコミュニケーション上の留意点を学ぶセミナーを全社員向けに開催。

#### 具体的な実践内容1

分類	外部サービス	名称	ここからダイバーシティ健康セミナー
提供元社名	始動産業医事務所		
内容	企業向け健康教育の提供		
導入時期	2024年7月	選択理由	●効果 ●実績 ●評判
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●483名申込(男性283名、女性200名)</li> <li>●新たに知る情報があった:95.2%</li> <li>●満足度:89.3%が大変満足・満足と回答</li> <li>●不調の改善につながる行動(受診・服薬等)への関心:80.4%が高まったと回答</li> <li>●講義の理解度、セミナーへの満足度、不調の改善につながる行動への関心はいずれも高い結果となった。女性特有の健康課題の改善に向けた具体的な行動に繋げるには、今回のようなセミナーや情報提供の機会を今後も継続的に提供し、職場全体で学びを重ねていく必要がある。</li> </ul>		

#### 具体的な実践内容2

分類	外部サービス	名称	はぐくみアートサロン
提供元社名	TOPPAN芸造研株式会社		
内容	創作活動を楽しむ「臨床美術」によるアートセラピーを通じて脳の活性化や自己肯定感の醸成、クリエイティブシンキング等に有効。育児休業中の社員の復職支援の一環として導入。		
導入時期	2012年	選択理由	●効果 ●機能・性能 ●サービス・製品の可能性
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2024年3月までに、のべ208人が参加</li> <li>●育児期社員、特に、比較的長期の育休を取得する女性の育児期社員の心のケアと職場、他の育児期社員とのコミュニケーションを通じて福祉に向けた不安の解消に効果を発揮している。また、家庭ではできないアートを通じた子の情操教育を体験することで、子の成長や、新たな一面を発見するなど、親子の心の絆を深める効果を実感する声が多数寄せられている。</li> </ul>		

### データ活用事例

事例名	事業所ヘルスケアレポートの利活用
内容	健診データから健康状態や生活習慣の特性を見える化した「事業所ヘルスケアレポート」を全事業所に配布。このレポートを活用し、事業所ごとの従業員の健康課題を踏まえた上で、ヘルスアップ推進担当が健康イベント等の施策を展開している。
利用データ	「事業所ヘルスケアレポート」(事業所ごとの健康診断結果)
利用者(ユースケース類型)	各事業所のヘルスアップ推進担当者

### 取り組みについての課題や困っていること

実施している施策の課題	女性特有の健康課題とその根本的改善を主題としつつも、職場でのコミュニケーションの観点や、男女双方の更年期等の不調についてもテーマに加え、ダイバーシティ&インクルージョンに向け、男性従業員の興味関心も喚起する形で、全従業員向けの健康セミナーを実施した。講義の満足度・理解度は高かったが、リテラシー(基礎知識、具体的な対処法や会社の支援制度等の認知度等)については、改善の余地を残す結果となった。
今後取り組みたい施策の課題	健康経営に対する投資額の的確な把握、ヘルスリテラシーの測定方法の特定、禁煙施策のさらなる展開

#### 施策内容(重点課題2)

健保直営診療所からの健診フォローを実施。高血圧症と糖尿病の高値で未治療者に対して通院確認をし受診勧奨を行う。

#### 具体的な実践内容1

分類	外部サービス
名称	ウォーキングアプリaruku&
提供元社名	株式会社ONE COMPATH
内容	スマホの歩数計データを利用して簡単に社内ウォーキングイベントを開催でき、リアルタイムに反映される個人・部署ランキングを常にスマホでチェック!上司や同僚とランキングを競いあうことで社内イベントが盛り上がりやすくなる。
導入時期	2018年
選択理由	●効果 ●社名・ブランド ●機能・性能 ●使いやすさ ●実績 ●評判 ●サービス・製品の可能性
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間開催イベント数:14 参加者数:のべ1,857名</li> <li>●職場ごとにチームを分け、aruku&amp;の順位やヘルスケア活動への参加率等でチームごとに年間のポイントを競うグランプリを実施。単発で実施していたヘルスケア活動を、一連の年間イベントとして統合することができた。全国に事業所が点在している事業所で、全社員一斉に行える取り組みとして「aruku&amp;」を活用し、一体感のあるイベントを開催し、個々の運動習慣の定着につながった。1日だけのイベントではなく、期間限定のイベントにすることで、運動習慣の定着に寄与した。</li> </ul>

#### 具体的な実践内容2

分類	自社サービス
名称	とどくすり薬局(TOPPANグループ)
内容	Webサイトから調剤や配達に必要な情報を薬局に送信することで、電話やオンラインによる服薬指導を受けられ、送料・サービス料無料で医薬品を自宅まで受け取ることができるサービス
導入時期	2021年度
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍で対面が難しい場面ではオンラインによる服薬指導ならびに処方薬配送は、感染予防や待ち時間の削減に寄与した。社内診療所が院外処方に切りかわった際にも、受診のハードルを下げることで、従業員の重症化予防において重要な役割を果たした。一部地域においてコンビニエンスストアでも受け取ることができるようになりサービスの向上につながっている。</li> </ul>

#### 具体的な実践内容3

分類	自社組織
名称	重症化予防対策
内容	健診結果(e-GFR、尿蛋白)よりハイリスク者を重点的に、通院確認や各種保健指導、栄養指導等を行っている。
導入時期	2017年度
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象者96%が維持・改善している。</li> <li>●将来人工透析にならないよう現状維持・改善をはかっている。</li> </ul>